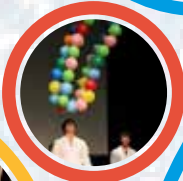
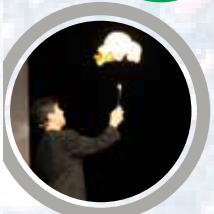


# 進化した 科学の 鉄人 in 沖縄



全国から科学実験ショーの達人が大集合!  
君は驚異の科学実験ショーの目撃者になる!!

日時:2016年1月24日(日) 12時30分~17時00分

会場:沖縄市体育館(アリーナ)(〒904-0032 沖縄県沖縄市諸見里2丁目1-1)

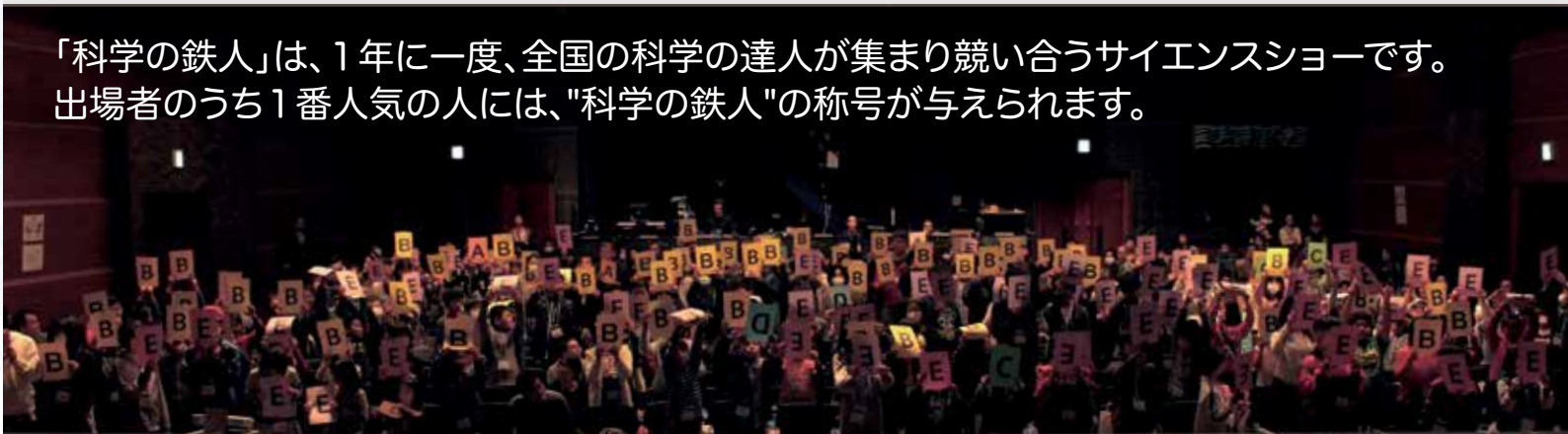
「科学の鉄人」は、1年に一度、全国の科学の達人が集まり競い合うサイエンスショーです。  
出場者のうち1番人気の人には、「科学の鉄人」の称号が与えられます。

## 今回の実験ショー

- 福岡はるさん 『ぱぱとはるの空気で実験』
- 矢野礼美さん 『君による、君のための実験ショー』
- 浅沼直樹さん 『たたいてまわして音実験』
- 山田 諒さん 『光を混ぜるとおもしろい!~青色LEDがノーベル賞の理由~』
- 金城靖信さん 『Mr. カガックの空気で遊びま show』

<http://www.sci-fest.org/>

問い合わせ先 メール: [office16@sci-fest.org](mailto:office16@sci-fest.org)  
電話: 098-933-4190(沖縄こどもの国)





# ようこそ 科学の鉄人 in 沖縄 大会へ

## 子どもの審査員のみなさんへ

「科学の鉄人」とは、学校で勉強する理科（自然科学）と関係する実験やお話（説明）を上手にみなさんにしてくれる「名人」のことです。今日はここ沖縄市体育館のアリーナを会場に、ステージとフロアで行われる実験ショーでいかにお客さんを引きつけ、その原理（しくみ）をわかりやすく上手に説明できるかを競い合います。今回は5組（人）の「科学の鉄人」候補者がそれぞれの得意なネタで「科学の鉄人」の称号を目指して戦います。「科学の鉄人」を決めるのは、今日この会場に集まった審査員のみなさんです。ここで繰り広げられる熱きバトルに注目し、「科学の鉄人」の誕生の瞬間をみなさんと共有しましょう。

でも、みなさんに本当に見てほしいものは、5組（人）の候補者の優劣（だれが良かったか？）ではなく、「科学ってこんなに素敵なんだ！」という「科学すること」の魅力です。「なんで？不思議だな」と思うことが科学の第一歩です。家に帰ったら、今日の実験ショーで見たこと、聞いたこと、知ったこと、学んだことが本当なのか自分自身でも是非確かめて下さい。新たな謎が生まれたらもっと深く探究しましょう。そして今まで味わったことのない感動に出会ってください。また「科学すること」には「自分が直接する」だけではなく「科学的に探究することが世の中全体として大切であると思うこと」も含まれます。是非みなさんも今日の「科学の鉄人」候補者たちのように科学が大好きな大人や科学を大切に思える大人になってください。

## 大人の審査員のみなさんへ

子どもの理科離れ・理科嫌いが社会問題として取り上げられるようになってからかなりの時間が過ぎてきています。かつての子どもも大人となり、科学全体に対する知離れや学びからの逃避が一層心配されます。社会問題としての理科離れ・理科嫌いの原因は様々であり、万人に効く特効薬的解決策・改善策があるわけではありません。

その一方で、科学の発展は人々の生活を豊かにするために必要な要素であることも事実です。そのためには科学者や技術者になるための教育（専門家を養成するための教育）の振興・充実も重要です。しかしそれ以上に、社会を構成する全ての人々が、科学を文化として受け入れて楽しむことが必要です。

日本は非欧米諸国の中ではノーベル賞受賞者の多い国です。ノーベル賞級の研究を行えるだけの資質・能力・機会がそろった人はほんの一握りかもしれません。だれもが直接的に科学技術の振興・発展に寄与することはできないかもしれません。しかし、理科に興味や関心のある子ども達はその関心や意欲を高め、確かな学力を糧に科学の深遠を探究する人材へと成長するとともに、全ての人々が、目先のテストの点数だけに一喜一憂するのではなく、「今」という時代や社会とその先にある未来を生きていくために必要な理科（自然科学全般）に関する教養を身につけた上で、自然科学・科学技術を研究する意味や意義を理解し、税金の使途（あるいは投資先）として有用だと判断し、その活動を支援したり応援したりできるようにすることで、科学の探究が持続していきます。

「科学の鉄人」では、主に小中学生を対象としたサイエンスショーの中で、いかに参観者である子どもや大人を引きつけ、参観者に科学の原理や日常生活とのつながり、学校で学ぶ理科との関係などを理解させる技量を競い合います。このイベントの目的は「科学を文化として受け入れて楽しむことができる人を増やす」ことであり、2002年から東京で開催され、2014年から沖縄市で開催されています。数えて13代目の鉄人は、本日の大会に参加されているみなさんの手によって選ばれます。「科学の鉄人」というイベントを会場一体となって楽しみましょう。

実行委員長 吉田 安規良（琉球大学）

# 目次

サイエンスプレゼンテーション 科学の鉄人 in 沖縄について	・・・3
プログラム	・・・4
会場案内	・・・5

## 実験ショー & ブース

ぱぱとはるの空気で実験 (福岡 はる：京都市立桂中学校)	・・・6
君による、君のための実験ショー (矢野 礼美：多摩六都科学館)	・・・8
たたいてまわして音実験 (浅沼 直樹：青森県立三沢航空科学館 科学実験工房)	・・・10
光を混ぜるとおもしろい!～ 青色LEDがノーベル賞の理由～ (山田 諒：東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻)	・・・12
Mr. カガックの空気で遊びま show (金城 靖信：沖縄県立総合教育センター)	・・・14

## 実験ショー & ブース

中学生エキシビション (山内中学校科学部、美東中学校サイエンス部)	・・・16
歴代の鉄人たち	・・・17
“科学の果実” を求めて ～「科学の鉄人」がめざすもの	・・・18
実行委員の紹介	・・・20
こども科学力育成事業について	・・・24
「沖縄こどもの国」	・・・26

当日、実験ショーの記録のために、ステージや会場をビデオカメラやスチルカメラで撮影いたします。撮影した静止画・動画は、記録保存以外に、研究発表、広報等の用途で使用することがあります。あらかじめご承知おきくださいますようお願いいたします。

# サイエンスプレゼンテーション 科学の鉄人 in 沖縄について

「科学の鉄人」は一年に一度、全国の科学実験ショーの達人があつまり、競い合うサイエンス実験ショーです。

小学生や中学生を対象とした15分のショー部門や75分のブース部門の中で「いかに子どもたちを引きつけ、科学の原理を理解させられるか」という技量を競い合います。会場の子ども審査員と大人審査員による審査で、一番得票の多かった人が、その年の「科学の鉄人」となります。

今年は大会への出場には沖縄を始め全国からたくさんのエントリーがありましたが、その中から選ばれた5人の達人が実験ショーを見せてくれます。

今日ここに集まったみなさんがいなければ、「科学の鉄人 in 沖縄」は、はじまりません。一緒に新たな科学の鉄人の誕生を目撃しましょう！

■日 時：2016年1月24日（日）12:30～17:00

■会 場：沖縄市体育館（アリーナ）

所在地：〒904-0032 沖縄県沖縄市諸見里2丁目1-1



■審査方法：科学の鉄人 2016in 沖縄は、ショー部門、ブース部門それぞれを審査対象とします。

- ・ショーとは...舞台の上で行うサイエンスショーの事です。
- ・ブースとは...体験・工作・ミニ実験ショー等をより近い距離で対面式に行い独自に魅せるスペースの事です。
- ・ショーの審査は、全出場者が終了後審査をします。審査は審査カードによって行います。
- ・ショー審査後、出場者・審査員はブースに移動します。
- ・全審査員は、選んだブースへ滞在する事ができ、何度でも移動できます。
- ・制限時間終了後、審査員によりブースの審査を行います。審査は投票によって行います。
- ・合計点数が高い方が今年度の科学の鉄人となります。

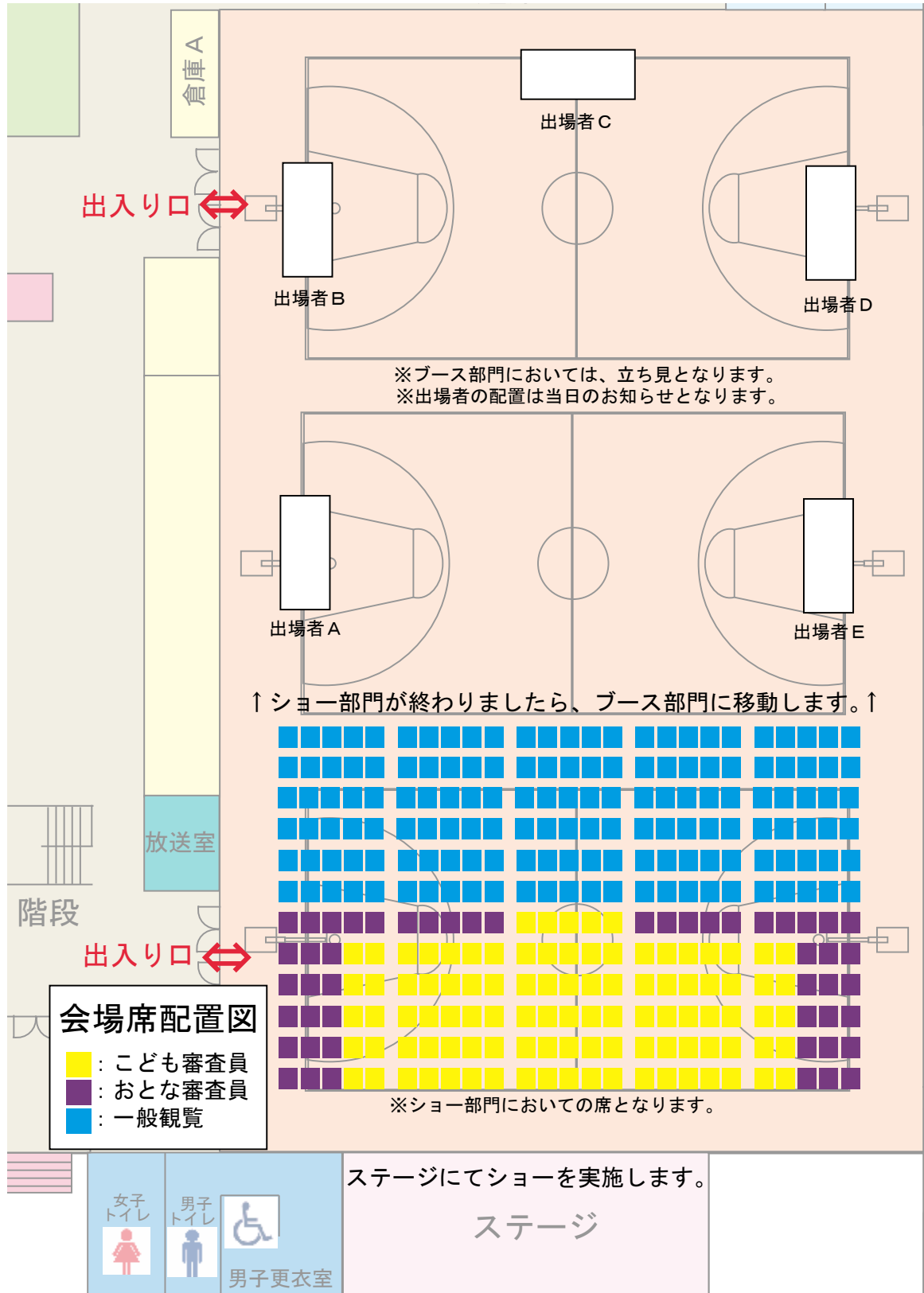
# プログラム

12:00	開場 受付開始
12:30 ~ 12:40	開会式
<b>実験ショー部門開始</b>	
12:40 ~ 12:55	ショータイム① 福岡 はる 「ぱぱとはるの空気で実験」
13:00 ~ 13:15	ショータイム② 矢野 礼美 「君による、君のための実験ショー」
13:20 ~ 13:35	ショータイム③ 浅沼 直樹 「たたいてまわして音実験」
13:40 ~ 13:55	ショータイム④ 山田 諒 「光を混ぜるとおもしろい!~ 青色 LED がノーベル賞の理由 ~」
14:00 ~ 14:15	ショータイム⑤ 金城 靖信 「Mr. カガックの空気で遊びま show」
14:20 ~ 14:25	実験ショー部門審査
14:25 ~ 14:35	……………休憩 (10分) ……………
<b>実験ブース部門開始</b>	
14:35 ~ 14:50	ブースタイム①
14:52 ~ 15:07	ブースタイム②
15:09 ~ 15:24	ブースタイム③
15:26 ~ 15:41	ブースタイム④
15:43 ~ 15:58	ブースタイム⑤
15:58 ~ 16:03	実験ブース部門審査
16:03 ~ 16:13	……………休憩 (10分) ……………
16:13 ~ 16:21	中学生エキシビション①
16:24 ~ 16:32	中学生エキシビション②
16:35 ~ 16:45	結果発表・表彰
16:45 ~	閉会式



# 会場案内

沖縄市体育館 (〒904-0032 沖縄県沖縄市諸見里2丁目1-1)



会場内は、参加枠によって席が決まっております。

着席の際には、今一度ご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

席の配置は、変更になることもございます。当日係がご案内致します。

# ぱぱとはるの空気で実験

## 実験ショー & ブース紹介 (こども審査員の皆さんへ)

### 1. 自己紹介

はいど〜も！

おやこまんざい  
父娘漫才コンビ『ぱぱとはる』です。

M-1 グランプリなどの漫才の舞台に挑戦して、関西のお笑いの大会で優勝したこともあります。

まんざい  
漫才だけでなく、サイエンスショーにも挑戦中！！

こんかい じっけん  
今回の実験のタイトルは

「ぱぱとはるの空気で実験」

みちか じっけんどうぐ しょくぶつ つか ふうき じっけん  
身近な実験道具や植物を使い、空気の実験をします。

### 2. どんなステージなの？

ふうき つか じっけん しょうかい  
空気を使った実験を紹介します。

いつもあたり前に触れ、身近に存在している空気。そんな空気について考える実験を行います。

#### ① 空気ふうきの存在そんざい

だん ぱこ つか ふうき  
段ボールやゴミ箱を使った「空気砲実験」で空気ふうきの存在そんざいを確認

#### ② 空気ふうきの流れながれ

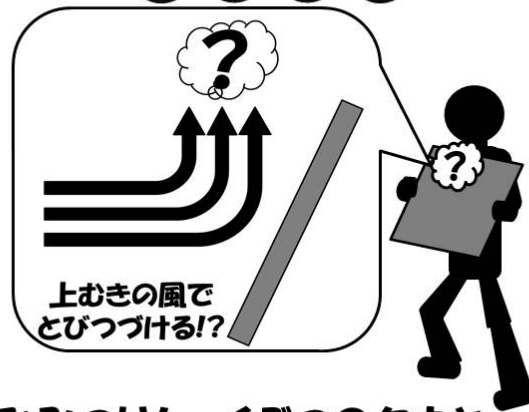
おお 大きなドライヤーのような機械きかを使っていろいろなものを浮かせる「浮き球実験」で空気ふうきの流れながれを確認

#### ③ 空気ふうきを利用した飛ぶ種と たね

えいえん と つづ 永遠えいえんに飛び続けるかもしれない紙飛行機かみ ひこうき ちようせんに挑戦ひみつ。その秘密ひみつは植物しょくぶつ たねの種くうきと空気そんざいの存在そんざい！？

えいえんにとびつづける  
(かもしれない?)

〇〇〇〇



そのひみつはしょくぶつのタネと  
空気ふうきのそんざい!?

### 3. みんなへのお願い

ショーというのは、舞台ぶたいに出ている人ひとだけでつくりあげるものではありません。みなさんの明るい笑顔あか えがお、反応はんのうがあってこそなんです。みなさんと一緒に素晴らしいサイエンスショーをつくりあげていきたいと思おもいますのでよろしくお願ねがいします。



## 実験ショー & ブースのポイント（大人審査員の皆さんへ）

（ばばとはる 父親：福岡亮治）

娘のはるが、行うサイエンスショーにはひとつの目標があります。それは、

『理科に興味のない人にも興味を持ってもらえるサイエンスショー』。

教育界では、いまだに「理科離れ」という言葉が飛び交っています。

でも、子ども達は理科が大好き。

ならば「理科が大好きな子どものまま小学生や中学生になればいい」

そんなおもいでたくさん子ども達にも親しんでもらえるサイエンスショーを提案しました。

小さな子ども達にもわかりやすくするために難しい説明は割愛し、その分、わかりやすい説明にする。

さらに「もっと親しみやすいサイエンスショーはないものか？」と模索した結果「子どもが子どもに伝えるサイエンスショー」の形に至りました。

娘のはるは、科学館が大好きで私のサイエンスショーを100ステージ以上見てきて、芸人さんでいう下積みはバッチリ。その後もアシスタントとして30以上のステージを経験してきました。

我々のサイエンスショーを見て、「1人でも多くの人が理科に興味を持ってくれたら」と思っております。

今回も身近な空気をテーマにした実験。今までの修行の成果を生かし、『老若男女すべての人にわかりやすいサイエンスショー』をお見せしたいと考えています。

## プロフィール

氏名：福岡 はる（ふくおか はる）

所属：京都市立桂中学校

中学1年生。2才から父親とコンビを組み、漫才修行開始。父娘コンビ「ばばとはる」としてM-1グランプリ2009 準々決勝進出やプロ参加の漫才大会で10以上の受賞。

5才からは、科学館に勤める父親の影響もあり、漫才で培った話術や舞台度胸を武器に科学館等の舞台上でサイエンスショーに挑戦。今年でサイエンスショー歴8年目となる。科学の鉄人には父親のアシスタントとして6才の時から過去2回出場し、11才の時には弟のかんととの小学生コンビ「はるとかんと」でエキシビジョンとして科学の鉄人 in 沖縄の舞台に立つ。彼女のサイエンスショーの人生は科学の鉄人とともに成長してきたといっても過言ではない。



# 君による、君のための実験ショー

## 実験ショー & ブース紹介 (こども審査員の皆さんへ)

### —はじめに—

君が見ているもの。それは、いつでも真実であると自信を持って言えますか？  
君が聞く音。あらゆる音の中で、なぜ、その音が君の意識に届いたのでしょうか？  
君が触れるもの。それは君にどのような情報を与えてくれますか？  
君が嗅ぐ、その匂い。君の感情や記憶にどのように結びつくのでしょうか？  
君が味わう時、その“おいしさ”は、いつでも同じでしょうか？



私たちが、「生きる」ことは、「感じる」こと。  
私たちは、自分が今いる空間・状況で得られる様々な情報をキャッチして、正しく、時に“都合良く”処理して、生命を維持しているのです。そして、これらの処理をすべて引き受けているのが、脳です。  
私たちの感覚と脳の関係を、ちょっとだけのぞいてみましょう！

今日、私が実験することは何にもありません。

実験は、みなさん自身が行うからです。

私は、みなさんが行う実験をナビゲートします。

さあ、準備はいいですか？

ショーの時間では、みなさんの目から入る情報を、脳がどのように処理するのかを確かめます。

私たちは、見たものを一瞬のうちに判断しているのですから、難しいことは何にもありません。いつも通り見ればいいのです。そこに、君がとらえている世界の本当の姿を知る手掛かりが見つかるはずですよ。

ブース体験の時間では、みなさんの「聴覚(聞く)」、「触覚(触る)」を研ぎ澄ましてください。注意深く感覚を働かせれば、私たちの感覚がいかに精巧かを実感することができるはずですよ。それなのに、時に感覚はだまされることもあります。「錯覚」の不思議を体験すると、わかっていても、正しく判断できない“変な感覚”が、意外とクセになるかもしれません。また、私たちの目は、構造上、ものを見ることができない部分があることを知っていますか？ それを確認することができます。

「君は、今日、新しい自分自身に出会えるはずですよ！」

**実験ショー & ブースのポイント（大人審査員の皆さんへ）**

私たちは、主に、目、耳、鼻、舌、皮膚の「五官」で自分に対する外部の刺激を受け、「感覚」が生じます。それぞれの感覚が、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚であり、これらを「五感」と呼びます。

感覚情報を脳が処理して、『眩しい』『うるさい』『くさい』『甘い』『痛い』といった自覚的な体験となるのが知覚であり、自分に対する外部の刺激が意味付けされます。知覚をもとにして、さらに『これは〇〇である』というように、それを解釈したり理解したりする過程や情報処理のプロセスが認知です。

ヒトの感覚は「五感」だけではありません。“かゆみ”などのように、その仕組みが未解明の感覚もありますし、無意識に働くと考えられている勘や直感、靈感、インスピレーションなどの「第六感」と呼ばれる不思議な能力を持つとも言われています。特に「直感」は、心理学や脳科学の分野で注目されています。

**今回のテーマは、「自分自身を科学する」こと**

私たちは、自分を取りまく世界からの刺激を感じて反応する自分の身体があるからこそ、「自分というもの」を確かな存在として意識できるのだと考えます。その意識を裏付ける感覚情報の精度と“あやふやさ”に迫るプレゼンテーションを試みます。私たちが、何かを判断したり、何かを信じたりする術とする「感覚」のしくみと、その感覚を司る「脳」の働きを、自分自身を通して知ることができる実験です。

“生きている”自分自身のメカニズムを、実感を伴って理解することで、自分自身の中にある、不思議と驚きの科学の世界を発見しましょう！

**プロフィール**

**氏名：矢野 礼美（やの れみ）**

**所属：多摩六都科学館**

大学では心理学を専攻。日本における生涯学習のあり方の研究に取り組み、学芸員、社会教育士、教員などの資格を取得して、人々の学びを支援する場である、多摩六都科学館の現職に就く。これまでに、館内、館外で行う科学普及事業の企画立案、実演を数多く担当。特にサイエンスショーの企画立案、実演の経験多数。幼児向け「キッズサイエンスショー」、学校団体向け「たまろく実験ショー」、館外出張授業にあたる「出前サイエンスショー」なども実演。また、多摩六都科学館を広く知ってもらうために、テレビ出演や、雑誌取材でサイエンスショーを実施。自分の学んできた知識の特性を活かして、あらゆる視点からのアプローチを試みながら、私自身が感じた科学の「？」や「!」を、科学が好きな人だけではなく、科学に興味を持てなかったり、苦手と思っている人とも共感できるよう、日々活動中。



## 実験ショー & ブース紹介 (こども審査員の皆さんへ)

実験のテーマは、「音」についてです。

毎日の生活で音を出したり聞いたりしていると思いますが、音の正体はなんですか？

身近だけど、考えてみるとちょっと難しい音について色々な実験を行います。

少しでもいいので、音について新しい発見があればとてもうれしいです。

### 実験ショー：「たたいてまわして音じっけん」

ショーでは、みんなでやってみて楽しい簡単な実験を行います。

音の仕組みがわかったら、お家でもぜひやってみてほしい実験です。

#### 1. 音の正体は？

音で一番身近なのは、みなさんの声です。声のでる仕組みをお話しつつ、音の正体についてお話していきます。

#### 2. たたいてパイプ

簡単なパイプをたたいて音を出してみよう。実はこのパイプにも、音に関係する秘密があります。これをみんなで考えてみよう。

#### 3. バンジーチャイム

金属でできたパイプを沢山作って曲を演奏します。なんの曲かわかるかな？

#### 4. ホースで音を出してみよう

ホースを楽器にしてみよう。どんなやり方かな？楽しいけどちょっと危ない？ホース実験をします。



### ブース展示：「音の形をみてみよう」

ブースではちょっと難しいミニ実験を行います。色々な実験道具を使って音の形をみてみます。

音の形とはどんな物でしょうか。みなさん全員が参加できる道具も用意しています。また、ショーで使った道具の体験コーナーも作りますので、たくさんの方の参加まっています。

#### 1. 音は波？ (クント管実験)

発泡スチロールが入っている筒に音をあてると、音の波の形を見ることができます。

この道具をみなさんと一緒に実験します。

#### 2. 砂が動く？

ビニール袋をピンと張った状態で、その上から砂をまきます。そこにメガホンを使って大きい声でさげぶとその声の力で砂が飛びはね、模様が浮き上がります。君の声はどんな模様かな？

#### 3. 音の模様 (クラドニ図形実験)

鉄板に砂をまき、パソコンからスピーカーである音を出すと、とてもきれいな模様ができます。



おなじょうにスーパーボールを使っても模様を作ることができます。砂の変化の様子をみてみよう。



### 体験コーナー

ショーで使ったパイプ・ホース等を体験できるコーナーです。やってみたくたい子は集まれー！  
仲良く順番に遊んでね！

## 実験ショー & ブースのポイント (大人審査員の皆さんへ)

今回の実験は音の実験を行います。とても身近な音ですが見る事が出来ないため、どんなものか子供達に伝えるのが難しい内容だと思えます。音は中学校1年で学ぶ内容になります。これを色々な道具や体験を通じて音の正体が振動であることを伝え、いかに印象付けるかを考えてながら実験を行っています。実験を通じて勉強や自由研究に役立てば成功だと考えています。

実験ショーでは、音が振動である事に加え、音階について簡単に解説します。実験は、パイプを叩く振り回すという簡単な方法です。この何気ない方法で起こることも若干の解説を行うことによって、基本的な仕組みを理解するのを助ける、又は興味をもってもらうのが主な狙いです。

展示ブースでは、普段見ることの出来ない音の形

を見る実験を行います。砂などのとても軽い物に音の振動を伝える事で、波の形や模様を浮かび上がらせる事ができます。大きな声やスピーカーの音で模様が出るのは一見の価値ありだと思います。参加していただいた方には、簡単に音の形を見る実験の行える道具もお渡しします。また、実験ショーで使った道具の体験コーナーも準備しますのでブース展示にもお越しください。

何気なく普段生活していても、良く考ええてみると不思議な事やわからない事は沢山あると思えます。これらに興味をもってもらうため、ほんの少しだけ手助けできればと思っています。私と一緒に色々な不思議を探してみましよう！

## プロフィール

氏名：浅沼直樹 (あさぬま なおき)

所属：青森県立三沢航空科学館

2000年に地元工業大学電気工学科を卒業。もともと事務職だったが、配置換えを機にインストラクターとなり、工作・実験の実演や開発を行う。青森県内に年間数十件出前授業を行っているが、県外で活動するのは今回が初めて。ついでに、飛行機に乗るのも初めて。ここ数年言われている理科離れが少しでも解消できるよう、だれでも簡単に理解できるような実験・工作の開発・実演を目指し試行錯誤中。



## 実験ショー & ブース紹介 (こども審査員の皆さんへ)

みなさんのまわりには、<sup>ひかり</sup>光があふれています。<sup>たいよう ひかり</sup>太陽の光、<sup>でんきゅう ひかり</sup>電球の光、<sup>ろうそく ひかり</sup>ろうそくの光…。  
今回の実験ショーでは、<sup>こんかい</sup>今回の実験ショーでは、<sup>じっけん</sup>ハカセと<sup>じよしゆ</sup>助手の<sup>ひかり</sup>ぴかりちゃんの<sup>いろ</sup>コンビで実験をしながら、<sup>ひかり</sup>光と<sup>いろ</sup>色のヒミツにせまっています。

### 1. わけるとわかる! <sup>ひかり</sup>光のフシギ

<sup>しろ ひかり</sup>じつは白い光にはいろいろな色<sup>いろ</sup>が混ざっている!  
<sup>じっさい ひかり</sup>実際に光を<sup>にじいろ</sup>虹色にわけてみましょう!

### 2. <sup>ひかり</sup>光を混ぜるとおもしろい!!

<sup>いろ ひかり</sup>いろいろな色の光を混ぜると、<sup>なにいろ</sup>何色ができるかな?  
たくさん混ぜるとおもしろい!?

### 3. インクを混ぜて色をつくろう!

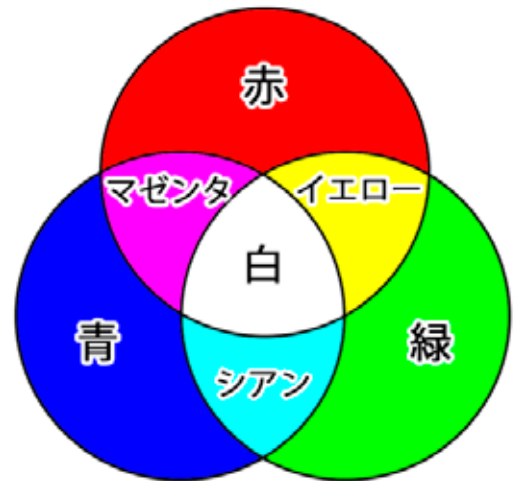
<sup>ひかり</sup>光と<sup>ちが</sup>インクの<sup>ちが</sup>違いとは?  
RGB と CMYK ってなんだろう?

### 4. <sup>はくしよく</sup>白色LEDの<sup>しく</sup>仕組みを<sup>あきら</sup>明らかに!

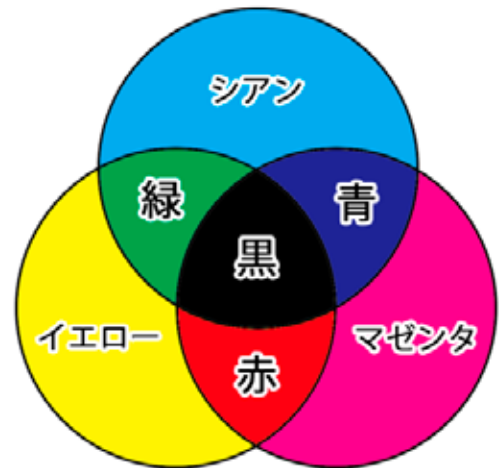
<sup>なかみ</sup>じつは中身はとっても<sup>たんじゆん</sup>単純なんです。  
ブースでは、<sup>あおいろ</sup>青色LEDが<sup>しやう</sup>どうして<sup>じゆ</sup>ノーベル賞を受<sup>しょう</sup>賞できたのか、<sup>しょう</sup>その<sup>じゆ</sup>すごさに<sup>しょう</sup>せまっています!

<sup>じっけん</sup>実験ショーでは<sup>とうじやう</sup>ハカセが登場しますが、<sup>みんな</sup>皆がイメージする「ハカセ」とは<sup>はくはつ</sup>どんな人でしょう?<sup>はくはつ</sup>白髪のおじさん?<sup>あたま</sup>頭が<sup>ばくはつ</sup>爆発している?

いったい、<sup>ほんとう</sup>本当の「ハカセ」の<sup>しやうたい</sup>正体とは…!?



光の三原色



色の三原色

## 実験ショー & ブースのポイント（大人審査員の皆さんへ）

今回のショー & ブースのねらいは大きく分けて3つあります。

まず1つ目として、「科学＝おもしろい」「理解すること＝おもしろい」という経験をたくさん積み重ねることで、「新しいことを見つける／物事の本質を理解する」ことへの興味を育ててほしいと思います。すべては興味を持つことから始まります。視覚的に印象に残る実験を通してまずは興味をひき、思わず「もっと知りたい!」と思わせるようなショーを提供します。

2つ目に、「科学の考え方」を身につけて欲しいと考えています。インターネット等を用いて、欲しい情報がすぐに手に入るようになった現代では、単に知識を蓄積するだけではなく、情報の取捨選択や正しい情報の判断といった「自ら考える力」を身に

つけていくことが重要であると考えています。単に実験を見せる一方向の情報伝達だけではなく、来場者のみなさんと一緒に考え、試行錯誤をすることで、「科学の考え方」を身につけていくきっかけを提供したいと考えています。

そして最後に、東大生や博士課程学生を身近に、さらに言えば来場した子供たちにとって未来の延長線上に具体的に想像できるような、そんな存在にしたいという思いがあります。「ハカセ」は普段の生活ではあまり関わりがなく、なんだか気難しくて近寄りづらいイメージはありませんか？今回のショーやブースの中で、日々研究に携わっている学生と実際に触れ合うことで、そのイメージを変えることを目指します。

## プロフィール

氏名：山田 諒（やまだりょう）

所属：東京大学大学院 博士課程1年

小さい頃から数学や理科に興味を持ち、そのまま理系の道へ。東京大学理科二類に合格し、サイエンスコミュニケーションサークルCASTというサークルに所属。科学の楽しさを伝える活動を行っていました。現在は化学を専攻し、本物の「ハカセ」のたまごとして日々研究に励んでいます。

ぴかりちゃんは島 日佳理さん。大学のサークル時代からのコンビです。東大農学部の修士課程を卒業し、今年度からは塾講師として、生徒が頭をフル回転させながら理科や数学の楽しさを感じられるような授業ができるよう日々精進中。



## 実験ショー & ブース紹介 (こども審査員の皆さんへ)

### ●どんな実験なの？

みなさんの周りには目に見えない空気がありますが、その力を感じることでできる実験をお見せします。また、見えない空気を使って少し見せ方を変えると、マジックのように不思議なことができるものがあります。私のメインステージやミニステージで明かされる、いくつかの科学マジックマジックの種明かしを見ながら、君たちも挑戦してみよう。

### ●実験ステージ

#### 1. 操れるシャボン玉

シャボン玉を自由自在に操って見せます。  
そのしくみはいったいどうなっているのか…



#### 2. ボーリングのボールを掃除機で持ち上げる

重い重いボーリングのボールを普通の掃除機で持ち上げます。  
掃除機以外に何を使ったらよいのか、みんなでクイズに答えよう。



#### 3. 大きな風船に入れた空気のカ

でっかい風船に空気を入れるとすごい力を発揮するよ。  
君はこの空気の固まりに勝つことができるだろうか？

さあ、挑戦してもらおう！

#### 4. 空気の流れを利用しよう！

空気をうまくつかまえると、こんなに面白いあそびができるよ。

ブーメランは、ちゃんと戻ってくるのかな？

Xジャイロってなに？

空気砲の△の穴からでた空気は、どんな形で飛んでいくのかな？



### ●ブース (ミニステージ&工作)

#### 1. 落ちない水

コップに入れた水が、あれれ…落ちないぞ!?

そのしくみはいったいどうなっているのかな…

家でも出来る簡単科学マジックです。家族や友達をびっくりさせよう！



#### 2. 空中浮遊

カップラーメンのカップやペットボトルをマジックのように空中に浮かせます。

これも、超簡単科学マジックです。君のマジックのネタの一つにどうですか？

#### 3. 雲の発生

低気圧や高気圧について知っていますか。

目の前で雲が出来る様子を見ることが出来るよ。



#### 4. ブーメランを飛ばそう！

みんなでブーメランを作って飛ばしてみよう。

どうやって投げたら、自分のところに戻ってくるのか？テクニックを教えるよ！





**実験ショー & ブースのポイント (大人審査員の皆さんへ)****●身の回りの現象を不思議に見せる**

「なぜ外でやるシャボン玉と風のない室内でやるシャボン玉では飛び方が違うの?」「なぜ飛行機は鉄でできているのにおちないの?」「雲はどうやってできるの?」こんなこと考えたことがありますか。みなさんの身の周りはたくさんの「不思議」であふれています。その不思議に気づき、「なぜ?」と考え、調べてみると面白い発見があります。しかし、人は日常生活の中で見慣れた様々な現象や道具には、意外と「なぜ?」を感じないものです。身近であるが故に、疑問に思い深く考えることはあまり無いでしょう。

今回は一番身近にある目に見えない空気に関する現象をとりあげ、「不思議」な現象に見せることによって「なぜ?」に気づかせ、考えさせる実験をお届けします。「科学とは何か」を心とからだで感じて欲しいと思います。

**●サイエンスマジックの魅力**

「人を驚かせることは誰でも好き」心の奥底に誰もが持っている感情なのです。それは知的好奇心を呼び起こすことができるものだからなのです。超能力現象(マジックも含む)と科学、どちらも人にとってワクワクするものだと思います。私は、不思議なものを見せることによって「なぜ?」と問う心を引き起こし、その探求心によって思考力をはたらかせることで、「科学」を通して子供たちとコミュニケーションがとれると思っています。

ブースでは、家庭でできる科学マジックを楽しんでもらいます。しくみがわかれば誰でも直ぐにマジシャンになれます。家に帰って子供と一緒に Let's try !

**プロフィール**

**氏名：金城 靖信 (きんじょう やすのぶ)**

**所属：沖縄県立総合教育センター**

琉球大学理学部物理学科卒業。1989年県立高校の教師として採用され26年間勤務。今年度より沖縄県立総合教育センターで物理の研究主事を担当。

1989年から沖縄電力青少年科学作品展で演示実験担当や各実験ブースの講師を勤め、2007年からは「Mr. カガックサイエンスマジックショー」を担当。2000年より日本科学振興財団主催の「青少年のための科学の祭典全国大会」に毎年実験講師として参加。2002年には科学技術振興事業団のサイエンスレンジャー事業で実験プロとして「サイエンスレンジャー」に任命される。また、2011年から『青少年のための科学の祭典沖縄大会』を運営委員長として企画し取り組んでいる。これまで県内各地の小学校や児童館、公民館等の依頼を受け、身近にある科学の不思議を知ってもらうために、科学教室などのイベントを行い、具志川火力発電所科学館主催の「親子科学教室」で年間6回程度実験講師を勤めている。

受賞歴、2004年沖縄電力青少年科学作品展に於いて「指導者奨励賞」を受賞。2014年「第51回沖縄タイムス教育賞」を受賞。



## 山内中学校科学部

僕たち山内中学校科学部は、一年生から二年生まで現在約 15 名が所属しています。

今年も、沖縄こどもの国さんと一緒に科学に関するたくさんのイベントに参加させていただき、工作や実験ショーを楽しみながら活動してきました。今年も様々な事に挑戦し、多くの事を体験したいと思っています。

今日は、僕たちと一緒に実験を楽しんでもらいたいです！



## 美東中学校サイエンス部

現在、1年生、2年生合わせて12名が所属しています。

今年度も、昨年度と同様に沖縄市児童センター結まつりや沖縄市生涯学習フェスティバルなどで実験ショーや工作教室など様々な場所で活動してきました。

また、昨年の実験ショーを踏まえて、反省点を改善し、サイエンス部の部員で高原公民館や比屋根団地での実験ショーや工作などの企画し実施してきました。

来年度も研究活動や実験ショーなどをたくさん行って、頑張っていきたいと思います。

今日は、私達と一緒に実験ショーを楽しんでいきましょう！



## 歴代の鉄人たち

- 第1回 2002年8月特に順位を決めませんでした。
- 第2回 2004年2月ステージ部門とブース部門と分けました。  
**初代鉄人（ステージ部門）** 東郷伸也 「空気の力と力比べ」  
**初代鉄人（ブース部門）** 小森英治 「気体をつかまえよう！」
- 第3回 2005年2月 ブース部門のみ。  
**2代目鉄人** 境 智洋 「様々な形の火山の内部」
- 第4回 2006年2月これ以降は、ステージ部門のみとなりました。  
2代目鉄人は違う部門にも挑戦され、みごと二連覇に。  
**3代目鉄人** 境 智洋 「石っておもしろい」
- 第5回 2007年2月ステージ部門のみ。  
**4代目鉄人** 益田孝彦 「自分で当てよう！なるほど浮力！」
- 第6回 2008年2月「鉄人コース」のほかに、「初心者コース」を設けました。  
4代目鉄人が本年も挑戦され、みごと二連覇を達成。  
**5代目鉄人** 益田孝彦 「磁-Shock!! ～磁力の不思議に迫る～」
- 第7回 2009年2月「初心者コース」改め「新人コース」と「鉄人コース」の2部門です。  
**6代目鉄人** 佐藤真太郎 「もしも僕が化石になったら？」
- 第8回 2009年10月 名称が「サイエンス・プレゼンテーション 2009 科学の鉄人」に変更になりました。  
初代鉄人、カムバック！  
**7代目鉄人** 東郷伸也「モーレッツ！さかさコップ教室」
- 第9回 2010年9月  
**8代目鉄人** 木色泰樹「空気を操るQバン忍者」
- 第10回 2011年9月  
**9代目鉄人** 益田孝彦「大気圧ってたいしたやつ！」
- 第11回 2012年9月  
**10代目鉄人** 神山幸也「300年前の公開実験を再現！！」
- 第12回 2014年2月  
**11代目鉄人** 木色泰樹・日野武志「親父も音ろくでショー」
- 第13回 2015年2月  
**12代目鉄人** らんま先生「君ならできる！ecoな実験・パフォーマンス」

13代目鉄人が誰になるかは、みなさんの審査次第です！ 当日の発表をお楽しみに！



# “科学の果実”を求めて ～「科学の鉄人」がめざすもの

「科学の鉄人 2016in 沖縄」実行委員会

---

## 「科学の鉄人」とは

---

料理人が腕前を競いあうテレビ番組「料理の鉄人」と同じように、科学実験ショーを参加した子どもたちや大人がその場でショーを評価し、勝ち負けを決めていく過酷な戦いが「科学の鉄人」です。

「料理の鉄人」は「アイアン・シェフ」という題名で米国でも放映され、これに注目したサンフランシスコの科学館エクスプロアトリウムが、「アイアン・サイエンス・ティーチャー」として実験ショーを競い合うイベントを発売しました。残念ながら、本家のエクスプロアトリウムでは、いまでは実施されていませんが、日本では2002年にこのイベントが始まり、今回の開催で14回目となります。

「科学の鉄人」は、小学生や中学生を対象とするサイエンスショーです。一般には、ブース形式とステージ形式があり、その中でいかに子どもをひきつけ科学の原理を理解させるかという技量を競い合います。第2回は両部門、第3回はブース部門のみで実施しましたが、第1回および第4回以降はステージ部門を実施してきました。今年は両部門で実施し会場を訪れた子どもの審査員及び大人の審査員の投票によってその年の「科学の鉄人」が選ばれます。

---

## 「科学の鉄人」はどのようにして始まったのか

---

子どもの知離れ・理科嫌いが叫ばれる中、民間の教育団体は、学校教育の枠にこだわることなく、幅広く科学教育・普及の振興・発展に寄与してきました。例えば、東京で物理教員が集まって学習会を行っているNPO法人「ガリレオ工房」（代表：滝川洋二氏）、関西の教員が中心のオンライン自然科学教育ネットワーク（通称 ONSEN、代表：山田善春氏）、メーリングリストやウェブによって全国的な活動を展開するサイエンスEネット（代表：川村康文氏）や新理科教育フォーラム（代表：左巻健男氏）、天文教育普及研究会（会長：嶺重 慎氏）など、実にさまざまな教育団体が活躍しています。これらのグループは地域に根づいた活動やITを使った全国規模での活動などを展開しています。他にも、仮説実験授業の研究会、科学教育協議会、極地方式研究会などの活動もありますし、ジャパン GEMS センターや日本 HOU 協会のように海外の教育手法を日本でも取り入れようと活動している団体などもあります。

このように、目的をほぼ同じにする多くの団体がありながら、その教育理念や指導方法が異なる団体間で共有されることは、これまでほとんどありませんでした。そこで、これら多くの教育団体に参加を呼びかけ、生涯学習や市民活動においても応用可能な優れた実践事例をお互い披露しあえる場をつくりました。それが「科学の鉄人」です。サイエンスショー（科学実験ショー）の競い合いは、演じる側も観る側もとても刺激的で、すぐれたショーを見ると、科学が文化に育っていくのではないかという実感があります。

---

## 「科学の鉄人」がめざすもの

---

私たちは、実はこの「科学の鉄人」を単なる科学実験ショーとして開催してきたわけではありません。参加する大人の審査員は、優れた実験ショーをじっくり味わうとともに、科学実験ショーやトークなど教育実践について深く議論します。そして、ショーの出場者を含む参加者全員で、子どもたちが科学をよりよく理解するための新しい教育手法について考えてきました。こうした活動をとおして、優れた実践のノウハウをお互いに学びあうことができるのです。

つまり、このイベントの目的は「科学を文化として捉えられる人々を増やそう」ということに他なりません。この「科学の鉄人」を通じて知り合った仲間が、日本各地で科学を文化として身近で感じられる活動・実践を推進して下さっていることでしょう。米村傳次郎氏に続くような実験名人を世に送り出し、一般の人々が科学をもっと楽しいと感じてもらえたらと思っています。「科学の鉄人」のコンセプトは、審査して1位を決めることが第一義ではありません。優れた実践者の活動を見て、互いに学習することが主たる目的なのです。

## 「科学の鉄人」のこれから

毎年夏に開催されている「科学の祭典」は、理科教育・科学教育関係者にとって、夏の風物詩と言える大きな科学イベントです。この「科学の鉄人」も同様に大きく成長してほしいと願っています。前者は広く科学の大衆性を目指すステージであり、後者は科学の前衛性を追求する道場であるといえるでしょう。両者がさらに発展し融合しあうことで、文化としての科学が日本にも根づいていくと考えています。

ノーベル物理学賞を1965年に受賞した朝永振一郎博士は、子どもたちに向かって次のようなメッセージを残しています。

**「ふしぎだと思ふこと、これが科学の芽です。」**

**よく観察してたしかめそして考えること、これが科学の茎です。」**

**そして最後になぞがとける、これが科学の花です。」**

(京都市青少年科学センターに残した色紙より)

この言葉に、さらに次の言葉をつけ加えて、この稿を終えることにします。

**「そうしてまわりの人々が幸せで豊かな気持ちになる、これが科学の果実です。」**



## 実行委員の紹介

実行委員一同、会場でみなさまにお会いできるのを楽しみにしております。

実行委員は年に数回集まり、メーリングリストを利用してこのイベントの準備をしてきました。科学の鉄人は、これからも末永く続けていきたい科学イベントの1つです。私たちと一緒にこれからも科学の鉄人を盛り上げていこうという方、ぜひ実行委員になられませんか。

### 吉田 安規良（実行委員長）

琉球大学 学長補佐・准教授

私が「科学の鉄人」にかかわり始めたのは、国立大学が法人化され、私自身が琉球大学に勤めるようになった2004年からです。沖縄開催も3回目。今回は沖縄の方が初めて本戦出場します。また沖縄開催1回目にエキシビションとして招待した小学生が、中学生となり本戦に挑みます。書類選考（予選）には、海外の方もエントリーされました。科学の楽しさ、おもしろさ、不思議さを体験することを通してみんなが科学を学び、科学に興味関心を抱き、その中でも科学を得意とする人が新しい真理を研究していく（わからなかったことをわかるようにする）ことが有意義なことで、それを（科学が得意か不得意かに関係なく）みんなで支えていく活動が沖縄から広く日本国内外へ発信されていることが実感できます。

本日ここに参加されたみなさんに、科学の楽しさ、おもしろさ、不思議さを体験していただければと思います。



### 伊狩 正

コザ小学校

元々は東京で行われていた「科学の鉄人」ですが、開催場所が、沖縄県沖縄市に変わりました。この全国規模のイベントに審査員として、また観覧することができるお客様の皆さんはもちろん、スタッフとして参加できる私自身とてもラッキーだと思います。特に今回は、小学校で習う理科の学習に関係した内容なので、より楽しめるはずです。ご期待下さい！



### 稲福 正

島袋小学校

昨年に引き続き「科学の鉄人」にかかわれることをとてもうれしく思います。今回は、ショー部門、ブース部門とそれぞれに分かれて行われます。昨年とは違って身近にショーや体験できるとあってとても楽しみです。

実行委員ではありますが、みんなと一緒に科学を楽しんでいきたいと思っています。



### 内間 清晴

沖縄キリスト教短期大学教授

今回初めて「科学の鉄人」の実行委員として参加いたします。

科学のおもしろさ、不思議さを体験し、科学への興味・関心や楽しさを感じ、自ら心を躍動させて学習できる児童・生徒が増えることを願っています。



## 大浜 覚

沖縄市教育委員会 指導課

サンエスプレゼンテーション「科学の鉄人 2016 in 沖縄」へようこそお越しく  
ださいました。心より歓迎いたします。「科学の鉄人」は、沖縄市教育委員会のこ  
ども科学力育成事業として開催しており、ここ沖縄市での開催が今回で3回目と  
なっております。

本日お集まりのみなさんが、科学の楽しさや不思議さを体感し、これまで以上  
に「科学するところ」を育てていただければと思います。レッツ・エンジョイ・  
サイエンス!



## 翁長 朝

公益財団法人 沖縄こどもの国

早いもので沖縄大会も3回目となりますが、今年も「科学の鉄人」がここ沖縄  
市で開催できることを大変嬉しく思っています。今回は子ども審査員の皆さんと  
年齢も変わらない方もエントリーしていますので、ぜひご注目ください。来年は  
あなたが出場するかもしれませんね!?



## 嘉数 裕美子

公益財団法人 沖縄こどもの国

今年も「科学の鉄人」を開催することができ、とても嬉しく思います。会場も  
広くなり、新しくブース形式を取り入れたことでより身近に出場者の熱い思い、  
実験の面白さを感じることができると思います。今回参加したことをきっかけに  
科学が好きなおももたちが多くなることを願っています。さあ!今日は思いっき  
り楽しみましょう!



## ギブス 奈々子

公益財団法人 沖縄こどもの国

実は…台所の中にも科学はいっぱい潜んでいる!! 私の研究室は台所!!  
みんなの周りにある楽しい事!!それも実は科学が隠れているかも!!  
それを発見できた君はすでに科学者!!将来は、君がステージの上に立っているかも。  
そんな将来を楽しみにしています!!!



## 久高 陽子

公益財団法人 沖縄こどもの国

いままで「科学の鉄人」は一般観覧席から応援させていただいていましたが、  
今回初めて実行委員を務めさせていただきます。科学って本当に面白い。毎日の  
暮らしの中で科学をしない日はないけれど、こんなに大きなサイエンスショーは  
年に一度の「科学の鉄人」だけ。今年はどうな激戦が行われるのか、ワクワクド  
キドキしています。



## 呉屋 博典

公益財団法人 沖縄こどもの国

生まれ育った沖縄市でこのような大イベントを開催することができ大変うれしく思います。科学の鉄人を通して、普段の生活と科学とのつながりを発見し、身の回りにあるフシギについて親子で話したり、調べたり、科学を通したコミュニケーションが活性化される事を期待しています。



## 高江洲 義尚

公益財団法人 沖縄こどもの国

沖縄こどもの国の「たかえすはかせ」です。こどものころから理科が大好きで、理科の勉強ばかりをしてきました。そして、自分が勉強したことを人に伝えることは、とても難しいと思っている今日この頃です。全国のサイエンスショーの名人たちのショーを通して伝える技を勉強しながら楽しんでいきたいなと思っています。



## 竹田 和花

琉球大学

琉球大学、入学とともに沖縄に来て、3年目となりました。亜熱帯の自然の中からさまざまなことを学んでいます。大学では、理科の楽しさ、考えることの奥深さを日々感じています。科学の鉄人では、科学の面白さ、楽しさを味わいたいと思います。よろしくお願いします。



## 宮城 緩人

琉球大学

普段、友人などが「あれすごいよね！」など、科学を話題にしているのを見聞きするとうれしい気持ちになります。そこで、この「科学の鉄人」に携わることで、たくさんの人が科学に感動する場に立ち会えると思い、実行委員に参加させていただきました。このサイエンスショーを通して会場の全員が科学に引き込まれていく姿が見られることを楽しみにしています。



## 宮城 政光

美原小学校

今年も待ちに待った「科学の鉄人」が沖縄にやってきました。みんなが科学の不思議な実験の魅力にひかれ、理科が大好きにな友達をどんどん作っていこう。



## 山田 翔子

琉球大学

今回初めての参加で運営に携わることとなりました。実験ショーも初めて見るものばかりですので、自分がいずれ出場者となるよう、出場者の方から自分に足りないものを学びたいと思っています。観客の皆様と一緒に実験ショーを楽しみ、科学の楽しさをより一層感じたいです。





## 與那嶺 拓誠

---

中の町小学校

科学の鉄人が沖縄で開催されて3年目。今回も運営に携われて嬉しく思います。これまでオーロラや空気、炎などこれまで色々なショーを見させてもらいました。どのショーも魅力的で、毎回「科学ってすげえな!!!」と熱くなります。今年はショーだけでなくブースもあるので、より間近で科学を体験できると思います。今日見に来てくれた子供たちー！もっともっと科学の輪を広げてくれたら嬉しいなあ(^o^)



## 與座 朝明

---

美里小学校

今回の「サイエンスプレゼンテーション科学の鉄人 in 沖縄」は、「平成 27 年度こども科学力育成事業の一環として開催されています。

## こども科学力育成事業について

「こども科学力育成事業」は、こどもたちが科学に対する興味等を高め、科学に関する学力向上を目指すとともに、沖縄の未来をつくる人材を育成することを目的として、沖縄市教育委員会より沖縄こどもの国が受託して実施しております。

今年度も、科学イベント、科学ワークショップ、出前科学教室、科学活動支援、科学作品展開催など、こども達の科学力を育む為の様々なプログラムを展開しております。

### <これまでの実績>

#### ●科学出前授業

市立幼稚園、小・中学校等に出向き、教育的プログラム要素に基づく学校の授業と連動させた科学実験を取り入れ、学校では揃える事が難しい専門的な機器等も活用を図りながら、授業の一環として科学体験ができる授業を実施。



#### ●科学ワークショップ

身近な自然や生活のなかにあり、学校の授業では取り扱うことの少ない視点を取り入れて、科学の不思議や楽しさに触れることができる参加体験型のワークショップを開催。

専門家やこどもの国のスタッフが講師となり、異年齢のこども達同士で協力し合い、1つのテーマにじっくり向き合う場を提供。



## ●科学イベント

こども達の科学に対する興味を引きたて、より深く科学的な視点を持つことができるように、科学イベントを実施。また、中部理科学研究会主催の児童生徒科学作品展を沖縄こどもの国で開催。



## ●支援事業

市内小中学校の科学クラブや科学部で、学校の授業では実施しないような実験や工作を行ったり、部活動の活動の支援を行っている。



## ●科学企画巡回展

遊びながら科学への興味・関心を引き出し感覚で体験することによって、日常の中にも科学があふれていることへ目をむけさせる場となる企画展を実施。



## 「沖縄こどもの国」

沖縄こどもの国は、祖国復帰記念事業のひとつとして、県内外の有志をはじめ、民間団体や小中学校等多くの方々で尽力を賜り、1970年5月5日（こどもの日）に開園しました。以後、「こどもの夢を育み、健康を増進し、情操と知識を豊かにする」施設として、動物園を中心に県民に親しまれてきましたが、更なる充実・発展を目指し、2004年4月15日、'理解と創造は驚きにはじまる' をコンセプトとしたこども博物館 'ワンダーミュージアム'、市民参画のエントランスとして 'チルドレンズセンター' を加え、リニューアルオープンとなりました。そして2012年には、公益財団法人の認定を受け、現在に至っています。

動物園は、レクリエーション・教育・種の保存・調査研究はもちろん、日本最南端に位置する動物園という特性を打ち出すため、琉球弧の生き物たちに着目し、ここにしか生息しない生き物たちを収集・保存・飼育展示の強化を進めています。また、琉球競馬ンマハラシーの復活や、国内においても例の少ないゾウの繁殖及び飼育方法等、'動物と人' が育んできた歴史・文化を継承していくことにも積極的に取り組んでいます。

ワンダーミュージアムは、参加体験型のチルドレンズミュージアムとして、科学・芸術・ものづくりを中心としたハンズオン展示、企画展やワークショップを行い、こどもたちの興味関心や創造力を育む場として運営されています。2014年4月には開館10周年を記念して、ハンズオン展示を全てリニューアルし、新しい魅力を発信しています。

市民参画の拠点として位置づけられているチルドレンズセンターは、園内でのボランティア活動のコーディネートをはじめ、講座や講演会、伝統文化の発信と継承等、人材育成を推進しています。

この他にも、沖縄市教育委員会をはじめ、科学・自然環境等をテーマとした様々な受託事業を展開し、沖縄市内だけではなく、離島域も含め県全域へ事業を展開しています。

沖縄こどもの国は、これらの事業を推進しながら、「人をつくり 環境をつくり 沖縄の未来をつくる」という理念実現のため、様々な皆様のお力添えをいただきながら、運営していきたいと思っています。

「沖縄のこどもたちの未来のために」

今後とも、沖縄こどもの国を末長く、よろしくお願いいたします。





MEISTER OF SCIENCE SHOW  
2016 in 沖縄 鉄人

サイエンスプレゼンテーション科学の鉄人 in 沖縄  
科学の鉄人実行委員会